



六
月

パストラル尼崎

水
無
月

No.110.2021(R3)年5月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：山本 弘樹

◆六月の歳時記◆

「父の日」に寄せて

“無責任男”「植木等」の父



植木等

六月二十日は父の日ですが、今回、息子に「支離滅裂」の人生と言われたひとりの父親をクローズアップしたいと思います。脳天気なサラリーマンを演じ、「スーダラ節」で一世を風靡した「植木等」さんの父、徹誠氏がその主人公。世間のイメージとは違い、とても生真面目な性格だった植木さん。真反対ともいえるぶっ飛んだ父親の影響は計り知れませんが、さて、その型破りなエピソードを少し紹介します。

若い頃、義太夫語りを目指していた徹誠氏、やがてキリスト教の洗礼を受けたあと、何と浄土真宗の住職に華麗に転身。汗ある日ステテコ一丁の徹誠氏が、植木さんを寺の仏様の前に連れて行きます。あろう事かこの父親、突然、物差しで仏様の頭をコンコン叩き、「この音を聞いてみろ。金ピカだけれども中は木だ。こんな物を拝んで、どうにかなると思ったら大間違いだぞ。」と諭したという。なんとも罰当たりな言動ですが、実は社会主義者として労働運動などに身を投じ、治安維持法違反の嫌疑で繰り返し投獄されても平等と平和を求め続けたという一途な一面もありました。（父親が投獄されている間、少年の植木さんは僧衣を着て檀家回りをしています。）

また生真面目な植木さんが、「スーダラ節」の楽譜をはじめ見た時、あまりのふざけた歌詞に「この曲を歌うと自分の人生が変わってしまうのでは？」と真剣に悩んだそう。父親に相談すると「どんな歌なんだ？」と言うので恐る恐る歌うと、父は「素晴らしい！」と涙を流さんばかりに感動！ 啞然とした植木さん。その理由を尋ねると、「この歌詞は我が浄土真宗の宗祖、親鸞聖人の教えそのものだ。親鸞さまは九十歳まで生きられて、あれをやっちゃいけない、これをやっちゃいけない、そういうことを最後までみんなやっちゃった。人類が生きている限り、この“わかつちやるけどやめられない”（歌詞のキーワード）という生活はなくなる。これこそ親鸞聖人の教えなのだ。そういうものを人類の真理というんだ。上出来だ。頑張て来い！」と諭され歌うことを決意した。このエピソードは、植木さんが歌手として生きていく上で生涯の支えになったという。とまあ、他人が聞くと爆笑のエピソードですが、ある意味、植木さんにとって修行そのものだったかも？笑

❀ 国によって異なる花の好み

季節のお花は、誰でも癒されますよね。でもこの美しいと感じる感覚は世界共通ではないようです。日本人はどちらかというと小さく可憐な花を好むと言われています。一方海外では15cmもあるツバキが大人気だそうで、品種改良も続々と行われているのだとか。日本人にとってツバキといえば「一輪挿し」。侘び寂びの世界ではなかなか大輪のツバキは馴染みません。

これに関して、李御寧の「縮み志向の日本人」の中で、日本人は小さいものを好み、盆栽や縮景なども、この「縮み」の思考であると例にあげています。（縮景＝琵琶湖や松島などを庭に表現）

花市場の様子も違ってオランダではどの花も満開状態。（日本だと二束三文？）日本人は満開の花よりは、今まさにほころびんとする花や蕾に、美しく咲いた時の花を想像し楽しむという特別な審美眼があるのだとか。俳句や短歌また絵画でも読む人にイメージの世界を残し余韻を楽しんだり、余白の芸術が愛されるのも我々がその審美眼をもっているからとも言われています。また日本では、葉の形や色つや、枝振りが重要となります。しかし欧米のフラワーデザインでは、別々の花と葉を組み合わせたりするので、葉を全て取る事もあります。背景にその国の文化や環境なども影響するかもですね。

「若武者十一人衆参上！」

端午の節句に製作した『兜』の前に、颯爽と登場したパストラル尼崎の“若武者十一人衆”兜を被り手には刀を握るその画像にくぎ付けになる皆様。

「ワ～！似合ってる！」「この人、●●さんやね～！」など歓声に包まれ、画像が貼られたイーゼル前は、ちょっとした観光スポット。笑 プロマイド（ちょっと古い？）を眺める女子高生を彷彿とさせるキラキラ現象に驚きを隠せません。笑

それにしても、若武者扮する男性陣の凛々しさは何なんでしょう？ポージングも完璧で堂々とした雄姿に感動すら覚えます。がしかし・・・ここに至るまで「え？そんなんエエわ～」「いやいや・・・」「恥ずかしいし～」など皆様、完全な逃げ腰。汗スタッフに脇をガッチリ抱えられ、お立ち台まで力なく連行された上、カメラマン助手と化した女性陣に「足をこうして！」などポージングの指導を受けオロオロしていた直後の姿とは思えません。笑

後日、小さな声で「あの写真、くれるの？」「孫に送ろうと思って・・・」とはにかんでおられる姿に、なんだかとてもホッカリ。心優しい11人の若武者に幸あれ！

